

自らの言葉を発したい

三重県 喜田 健児



54歳になった現在、両親をはじめ「私を創ってくれた人」が次々に思い浮かび、これらの出会いのどれ一つが欠けていても、今の自分はありません。

2003年、鍵山掃除道と出会いました。全校生徒約600人の荒れた中学校に転任したとき、

三重掃除に学ぶ会や便教会に参加して学びながら、掃除に力を入れました。100人以上の子どもたちが早朝ボランティアに参加し、掃除を毎日行ないました。私はそこで、「子どもたちは、社会を変えて創るチカラがある」とを学びました。

教員から政治家となった今、鍵山先生のように全身から発する言葉を持ちたいと考えるようになりました。生き方と重なる言葉を持ち、その言葉の力によって、子どもを真ん中にした政治を実現し、誰もが幸せに暮らせる社会を実現したいのです。

20年前は、暴力や仲間外しなどにより、社会への不満や不安を表現する子どもや、反対に無気力になる子どもがいました。

しかし今は、ネット上で誹謗中傷が展開されています。また、大人が考えたフレームに入らなければと過剰適応して心を病み、不登校になる子どもが増えています。

私は、日本の未来に大きな不安を抱えています。このような子どもたちを救うためには、自らの言葉を持ち闘わなければなりません。

鍵山先生のような言葉を持つことは、たやすくなく厳しい道です。だからこそ、それに挑戦し、今の自分を超え、全身から発せられる独自の言葉を持つ頂点をめざしたい。それがご恩返しであり、鍵山掃除道を後世にのこしていくことにつながるように思います。

(515-0033 松阪市垣鼻町1085-1 三信テナントB)

鍵山掃除道に心より感謝

山形県

富田 とみた

浩志 ひろし



生は鍵山様の高校時代の恩師と後で知りました。当時私は、社長として多くの悩みと迷いの中におりました。鍵山相談役のお話は心に響き、素直にわかりやすく受け入れることができました。

1997年6月28、29日山形市に鍵山相談役がお見えになり、講演と掃除実践を実施していただき、山形にも「掃除に学ぶ会」の根をおろすことができました。

掃除の実践を通して、一番変化したのは自分でした。妻がその変化に気づき、今では一緒になって励んでくれて嬉しいです。

鍵山相談役が言われたとおり、掃除をすれば社風が良くなります。どんなにすごい売上や大きい会社でも、社風の悪い会社は未来永劫成長や存在はしません。

あるとき上山温泉のお風呂の中での相談役の助言は、私の人生の指針となりました。

「社長は念いと下座行を特に大切にすべきですよ。大きい会社にするよりも、いい会社になりたいですね。不安がなくなったら、社長はやめた方がいいですよ。不安のない人はいません。不安があるから前進できるので、不安は大事な要素ですよ」

鍵山相談役との出逢いは、まさに「逢うべき人には必ず逢える。しかも一瞬早すぎず、一瞬遅すぎないときに」でした。数多くのご指導を賜わり、大変ありがたく存じます。「山形掃除に学ぶ会」の黒沼範子さん、事務局、世話人の方々に深く感謝いたします。

(990-0031山形県山形市十日町4-1-3)

1996年10月15日、東京六本木の国際文化会館での中村治嵩法律事務所開設30周年記念、「鍵山秀三郎イエローハット社長」『掃除と経営』について語る」

26年前のこの得難い機会が、鍵山相談役との出逢いでした。因みに中村弁護士は義父、佐光義民先

地域の清掃活動27年

静岡県

小野^{おの}

繁美^{しげみ}



1995年、阪神淡路大震災とオウム真理教による地下鉄サリン事件が起きました。この悲惨なできごとを目にし、私は「世の中を良くしなければいけない」と強く感じました。そして自分にできることは何かと考え、近所の掃除を始め、以来今日まで一日も欠かさ

ず続けております。

2001年、私は目黒のイエローハット本社を訪問し、鍵山秀三郎さんと面談できました。鍵山さんは丁寧に対応され、終わった後、大変親切にも私を渋谷駅までご自分で運転して送ってくださいました。これは私にとって忘れられない思い出であり、私が現在まで掃除を続けてこられた原動力になっています。

私は現在、地元沼津の国道246号線バイパス(沼津く裾野・長泉町区間約3km)、および町内の8か所のトイレを清掃しています。私は大切にしてきたオートバイを売ったお金で、「鍵山秀三郎講述集『微言108』」を自費出版し、知人や友人に配っています。その中から、いくつか挙げます。

- ・すべては小さな実践の一步から
- ・一つ拾えば 一つキレイになる
- ・つづけると身につく 身につくとつづけられる
- ・掃除によって心の荒みをなくしたい
- ・整理整頓は仕事の能率を高める
- ・清掃清潔は仕事の質を高める
- ・ものごとは小さく始めて大きく育てる
- ・ゴミや空き缶は拾ってくれるのを待っている
- ・ハキモノをそろえると心もそろ

う
「続けてこそホンモノ」私は「わが日本に生まれ凜として生きる」「あいさつ、そうじ、あとしまつ」「黙働清掃」を心に、地元の清掃活動を続けてまいります。

(411-0934 静岡県駿東郡長泉町下長窪466-8)

ひとつ拾えば ひとつだけきれいになる

愛知県

山田^{やまだ} 朝夫^{あさお}

1997年にトイレ掃除を始めてしばらくすると、道端のゴミが目につくようになりました。そこで、毎朝自宅から役場までの道路の掃除を始めました。

道路沿いの店の駐車場に散乱するゴミも気になります。ところが「山田が余計なことをしている」と言われているようです。良いことをしているはずなのに、なぜこんなに評判が悪いのだろう…。私は、思い切つて鍵山相談役に悩みを打ち明けてみました。

「誰も見ていないような、朝早く起きてごみを拾いなさい」

「私がごみを拾っているのを見て、みんながあれは良いことだと思つて、真似して一緒にやってくれないと意味ないじゃないですか」

「そういう思いでごみを拾っているあなたの背中には、『どうしておまえは拾わないのか』と書いてあります。そんな看板を背負つてゴミを拾っている人を見て、じゃあ、私もやろうと誰が思いますか」

私は、元は旧自治省の官僚でしたが、現在は、全国の市町村を巡つて、各地のまちづくりのお手伝いをする仕事をしています。

あるとき、鍵山相談役は私に尋ねられました。「山田さん。あなたの仕事は、銀行の支店長に似ていますね。支店長は数年で次の勤務

先に異動しますが、あなたは、どんな支店長が良い支店長だと思いますか」

私は、答えました。「在任中に支店の業績を上げる人が、良い支店長ではないでしょうか」

すると、鍵山相談役はニッコリ笑つて、おっしゃいました。「いいえ、その人がいなくなつてからその支店が良くなる。そういう人が、本当の良い支店長なのです。能力があれば、短期的に業績を伸ばすのは簡単です。でも、無理やり咲かせた花はすぐに枯れてしまふ。大事なのは、根を育てることです。根や葉が先で、花や実は後でよいのです」

鍵山相談役、そして「掃除」との出逢いは、私の生き方を大きく変えてくれました。感謝。

私にとっての「掃除道」とは

京都府

時政^{ときまさ}

和輝^{かずき}

京都掃除に学ぶ会の活動には、2013年から参加しました。

一番の学びは、掃除が人の心を豊かにすることを実感できたこと。京都新洗組の活動拠点である木屋町の風景は、私が参加したところとすっかり変わりました。その度に仲間や地域の方の協力があつて、継続できています。

「わざわざ」土曜の早朝に一番汚いところをきれいにしようと、例外なくやってきたことが、人の心を動かし、荒みを和らげ、感動を生んできたことを経験しました。

掃除道の根底にある「自分のことは後にして、人のことを先にする」という教えが、いつも良い方向に導いてくれたのだと思いません。掃除を続けてきたことが認められ、地域にも根付いていききました。イベントの際にも、「新洗組がいるから！」とあてにしてくださいさるようになりました。

鍵山先生が始められた掃除の活動が、「掃除道」と呼ばれるようになったことに深い意味を感じます。しかし、私の掃除が「掃除道」と呼ぶにふさわしいか反省します。「道」は単に、テクニクを知っていたり、一芸に秀でていたり、長くやっていることではなく、人格に深く落とし込まれ、他者に感化を与え得るからです。

儒教の經典の一つ『中庸』の冒

頭部分にこうあります。「道は須臾も離るべからざるなり、離るべきは道に非ざるなり。この故に君子はその睹ざる所を戒慎し、その聞かざる所を恐懼す」

「道」であるならば、そこから少しも外れることがない。だから、人が見ていないところでも慎み深くいる。掃除が「道」に高められれば、少しも「道」から外れないようではなくてはいけません。しかし、つい傲慢になったり得意になったりする心が出てきます。

私にとっての「掃除道」とは、私自身の心を磨くことを通して、私のいる場所をきれいにしておくことです。まだまだ「道」半ばですが、「慎独」を忘れず精進いたします。

(600-8361 京都府京都市下京区堀之上町 531-303)

自分の人間性が磨かれて 初めて人は動く

福岡県

廣瀬ひろせ
透とおる



1984年、念願の中学校教師になった。しかし、日の丸・君が代反対を唱える日教組と管理職との空理空論の対立に嫌気がさし、1年で辞めて田川で私塾を始めた。子どもたちの自立を目指して頑張り、あつという間に10年以上が過ぎた。私塾指導研修会に

参加して塾経営のノウハウを学び、プレハブを新築し、2005年塾生は80名を超えた。しかし塾の繁盛とは裏腹に、教育への空しさが大きくなっていった。

その年、上甲晃先生の講演で鍵山相談役のことを聞いた。それから惹かれたように掃除に取り組み始め、9月「北九州掃除に学ぶ会」に参加した。終わった後、自分は達成感を感じ、子どもたちは生き生きとした表情に変わり、自分が探し求めていた教育は、これだと思った。

以来北九州の会に欠かさず参加し、水を得た魚のように塾生と掃除に学ぶ会を年3回行うようになった。掃除を通して子どもの中に目覚める人間性は、金もうけに流れかけていた自分に、

教師をめざした原点の心を蘇らせた。合宿のために宿舍を建て、食事の片付けや布団の上げ下げ、掃除、論語の素読など、塾生の自立のための指導に意気揚々と取り組んだ。わがままだった塾生も素直になり、勉強も自発的に努力するようになった。

ところが、地域には、掃除をさせられる塾と映ったようで、塾生は減少し、2012年には家内もバイトを探さなければならなくなった。ここでようやく、「掃除をすると塾は良くなる」と安心して自分のおめでたさに気が付いた。そして、指先が自分に向くようになって再び好転し出した。「自分の人間性が磨かれて初めて人は動く」

世の中うまくいかない からおもしろい

京都府

戸田^{とだ}
紳司^{しんじ}



1998年、イエローハット本社での掃除実習でのこと。相談役は私の雑巾の絞り方を見て、「ずいぶん負荷をかけた絞り方しませぬ、戸田さん。周りに負荷をかけた生き方をしていませんか」

この一言で私は瞬殺された。

2001年、京都年次大会の会場はA小学校、私は実行委員長。事前に予測できないことも起こる。当日朝、あろうことか学校の正門前に車が乗り捨てられるように駐車されている！

学校側も大慌て、警察も私有地なのでレッカー移動できないという。持ち主にも連絡が取れない。大渋滞が起こりはじめた。私は怒り心頭で頭に血が上っている。

そのとき、参加者の一人が私にささやいてくれた。「戸田さん、世の中思うようにいかへんからおもしろいんやで！」「みなんで対応しよう」

参加者の多くが、笑顔で住民や運転手に事情を説明しはじめてくれた。大渋滞なのに、パニック

にならない。みんな冷静だ。一番イライラしていたのは私。

警察が、持ち主を連れてきてくれた。当事者「飲酒運転で危険だと感じ、とっさに学校内の空きスペースに駐車して帰宅した」と…。素直に謝ってくれた。大会は遅れながらも無事終了した。

私が学んだこと。「起こった事実に対して、どう捉えどう動くか」私は、「そんなことはあつてはならん！」と、正義感で怒り心頭し動転していた。仲間は、「世の中うまくいかないから学びがあつて、おもしろい」と対応した。物ごとの捉え方次第で動きを変えられることを体感した。鍵山掃除法「に」学ぶという価値観があるから、身につけられた力だろう。

(612 0846 京都市伏見区深草大谷方帖敷町127-20)

相談役に学んだ謙虚

岐阜県

近藤 こんどう

則繁 のりしげ



二百余名の中に自分がいる1994年の「第二回掃除に学ぶ会」の集合写真。私が初めて参加した大正村掃除に学ぶ会です。

ここで鍵山相談役から、トイレ掃除の手順や道具の使い方、心構えなどを教えられました。私は初めて聞くことばかりで、目か

らウロコが落ちました。さらに、参加者の真剣な眼差しと真摯な態度にとても感動し、私はすっかり掃除に感化されました。

さっそく翌日から、わが家のトイレ・洗面台掃除の当番になりました。そして近隣のゴミなどに気づいたらすぐ片づけてきて、今日にいたります。おかげで十数年経ったわが家のトイレ・洗面台は、今も新品同様ピカピカです。ゴミ拾いもどなたが見ていられたのか、市から感謝状をいただく名誉をいただきました。

その後、大阪、長崎など各地の大会に参加しました。三重・伊勢神宮大会でのことです。食事会場は超満員でした。相談役が私の隣のわずかなスペースを見て、「近藤さん、お隣りよろしい

でしょうか」とお膳を手にみえました。願ってもないことと食事をいただいていると、相談役は私よりもはるかに身を縮めて召し上がっているではありませんか。私は熱いものを感じました。

もう一件。閉会式で体験発表に指名された私は、司会者の前を堂々と演台に歩きました。最後は相談役の総括でした。相談役は、わざわざ司会者の後ろにまわって、演台に上られました。私の行動とは大違いで、そのお姿を拝して、高慢な自分を恥ずかしく思いました。

私はそれ以来、相談役のこの謙虚で穏やかなお姿を脳裏にとどめ、コツコツと生活や掃除の歩みが続けています。